

ひょうどう秀一 葛飾区長選2025立候補表明記者会見レポート

2025年8月28日東京都庁記者クラブ&10月3日葛飾区株式会社ちかなり会議室

■昨今の葛飾区政をどのように見えていますか

全国の多くの自治体が抱える問題の根幹にあるものは人口減少、そしてそれに紐づく形での財政の深刻な悪化です。それらの点で葛飾区は恵まれた状況にあります。今日時点で人口は増加傾向にあり、財政状態も優良と言えるレベル。私がかつて在籍していた「東証プライム上場企業」と収支の規模や財政状態がよく似ています。総合的には現在の青木区長の16年の実績は評価に値するとみています。

■葛飾区が抱えるもっとも大きな問題は何でしょうか

現区長の高齢と多選です。青木区長は現在76歳で4期16年目。それほどご高齢の方に47万葛飾区民のリーダーという重責をここからさらに4年託すのか否か。有権者の皆さんの判断は全国からも注目されるでしょう。仮に今回再選されたとしても80歳となる4年後にはまた同じ問題に直面します。次世代のリーダーとして誰が名乗りを上げるのか、そして区民は誰を選ぶのか。バトンタッチのタイミングも重要です。それは民間の企業も同じ。実績を残した TOP の継承は何よりも重要かつ難題なのです。

■多選（長期政権）の問題点とは？

例えばアメリカは多選制限の進んだ国です。大統領は3選が憲法で禁じられています。同国では次の観点から多選の制限が支持されてきました。

- ① 権力の乱用の抑制
- ② 利益誘導型政治の防止
- ③ 再選をねらった財政支出の増大の防止
- ④ 職業政治家への反発
- ⑤ 選挙における競争性の確保（再選率上昇への反発）
- ⑥ 新しい人材と新鮮な考えの取入れ

日本国内でも知事などの多選制限法案の国会提出や条例施行の事例は数多く存在し、その多くが4選を禁止また自粛を促す内容となっています。



■次世代のリーダーに求められる資質は何でしょう。

- ① 長期的な視点に基づく経営判断能力
- ② 人事（適材適所、採用、育成、動機形成）に知識、見識とセンスがあること
- ③ 適切な情報開示と説明能力
- ④ 交渉力

また、葛飾区の場合は区役所新卒生え抜き出身の区長が32年続いています。学校を卒業後、60歳まで区役所勤めを全うした人は事業を創造する経験値が皆無です。副業すら禁じられていますから。しかしいつの時代でもどこの自治体でも「産業振興」は重要課題です。プロダクトアウト型（世に存在しない新しいサービス）の起業を経験した経営者ならば大いに期待ができるでしょう。しかしそんな有能な人材は政治の世界にはほとんど入ってきません。すでに名誉と成功を手に行っているためです。そこに一つの社会的意義を感じ、私が名乗りを上げさせていただきました。